

【回答提出先】茨城県保健医療部医療局医療人材課 医師確保グループあて
E-mail: i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp

【回答者情報】

二次保健医療圏	鹿行保健医療圏
担当者所属	潮来保健所 地域保健推進室
担当者職氏名	係長 林 隆司
電話番号(内線)	0299-66-2115
Eメールアドレス	itaho01@pref.ibaraki.lg.jp

色付きのセルに入力してください。

令和5年度医師派遣調整に係る医師派遣要望調査

問1 地域医療構想調整会議における議論の状況について

(1)茨城県地域医療構想(平成28年12月策定)における二次医療圏内の政策医療の現状及び課題

脳卒中・急性心筋梗塞等の患者が域外流出している。
医師、歯科医師、薬剤師、看護師等が不足しており、特に医師の不足が顕著となっている。
救急搬送に時間がかかっている。

(2)その後の調整会議における議論や社会情勢の変化等により新たに生じた課題等(医療機関の開設・閉鎖・統合、新興感染症、災害、都市計画、人口減少、少子化、高齢化、公共交通等)

【救急医療】
救急搬送については、小山記念病院・神栖済生会病院・白十字総合病院において、2,000台増加を目指すことで合意を得られた。
一方で、行方市及び鉾田市の救急搬送については、なめがた地域医療センターの休床等により、搬送先の確保等の課題が残っている。

(3)上記の課題に対する医療圏としての対応方針、医療機能の拠点化・集約化に向けた今後の方向性

【脳卒中】 重症患者への救急対応：小山記念病院(日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター) 専門的医療を行う医療機関：小山記念病院・白十字総合病院・鹿嶋ハートクリニック
一次脳卒中センターでもある小山記念病院を中心に、地域においてある一定程度の診療を行える体制を構築して行く必要がある。

【心血管疾患】 重症患者への救急対応：小山記念病院・鹿嶋ハートクリニック 専門的医療を行う医療機関：小山記念病院・白十字総合病院・神栖済生会病院・鹿嶋ハートクリニック
【がん】 重症患者への救急対応：小山記念病院(地域がん診療病院) 専門的医療を行う医療機関：小山記念病院・白十字総合病院・神栖済生会病院
上記については、現状の確認のみを行ったところであり、引き続き拠点化・集約化等の協議を行っていく。

【救急医療】 重症患者への救急対応：小山記念病院・白十字総合病院・神栖済生会病院・高須病院 専門的医療を行う医療機関：小山記念病院・白十字総合病院・神栖済生会病院・高須病院・鉾田病院・なめがた地域医療センター
救急搬送については、小山記念病院・神栖済生会病院・白十字総合病院において、2,000台増加を目指すことで一定の合意を得られている。
なめがた地域医療センターについては、2025年までに専門的医療を廃止することを予定している。
各医療機関において、自助努力を含めあらゆる方策を取りながら域内での救急受入の増加を目指していく必要がある。

【周産期医療】 小山記念病院(周産期救急医療協力病院)
【小児医療】 神栖済生会病院(地域小児救急センター)

(4)課題解決に向けた各政策医療分野における各医療機関の拠点化・集約化・役割分担・連携・機能分化の方向性

政策医療分野	医療機能の拠点化・集約化、各医療機関の役割分担・連携・機能分化の方向性 ※機能強化する医療機関についてのみでなく、それに伴う他の医療機関の対応についても記載願います
がん	【重症患者への救急対応】：小山記念病院(地域がん診療病院) 【専門的医療を行う医療機関】：小山記念病院・白十字総合病院・神栖済生会病院 ■役割分担について協議を行っておらず、今後継続的な協議が必要
脳卒中	【重症患者への救急対応】：小山記念病院(日本脳卒中学会認定一次脳卒中センター) 【専門的医療を行う医療機関】：小山記念病院・白十字総合病院・鹿嶋ハートクリニック ■鹿行地域における脳神経外科の不足については、県脳卒中専門部会でも課題としてあがり対応できる医療機関の強化が急務であると考えている。 一時脳卒中センターである小山記念病院(365日24時間体制)を中心に、脳卒中を含む脳血管疾患患者への対応を行っているが、上述のとおり医師不足は顕著であり、域内では対応できないケースが多くなっている。 地域として小山記念病院が365日24時間の医療を提供しているが、医師1人の負担が課題となっているため、安定的に医療を提供する体制の維持は急務である。
心血管疾患	【重症患者への救急対応】：小山記念病院・鹿嶋ハートクリニック 【専門的医療を行う医療機関】：小山記念病院・白十字総合病院・神栖済生会病院・鹿嶋ハートクリニック ■役割分担について協議を行っておらず、今後継続的な協議が必要
救急医療	【重症患者への救急対応】：小山記念病院・白十字総合病院・神栖済生会病院・高須病院 【専門的医療を行う医療機関】：小山記念病院・白十字総合病院・神栖済生会病院・高須病院・鉾田病院・なめがた地域医療センター ■救急搬送受入件数について、地域全体で年間2,000件の増加を目標に取り組む。(小山記念病院・白十字総合病院・神栖済生会病院) ■3病院において、各医療機関とも救急搬送要請を断らない方針を掲げ努力をしているが、要請件数が増え疾患の幅が多様化する中で自助努力では対応できなくなっている。 ○小山記念病院においては、要請件数の増加や疾患の幅や重症度が高いことが多くなり、現体制では対応が難しい場面が増加している。重症者や救急要請の重複などに対応することができる救急科の強化が急務である。 ○白十字総合病院においては、高齢患者の搬送が多く、疾患の幅も大きい、その中でも呼吸器疾患の割合が高くなっている。また、鹿行地区は工業地帯があり様々な呼吸器疾患患者(じん肺、アスベスト肺等)が多いため、呼吸器疾患に対応できる体制の構築が急務である。 ○神栖済生会病院においては、自助努力により救急搬送受入は増加傾向にあるが、消化器内科については専門医がいいため対応が困難な状況である。地域として更なる受入増加を図るため消化器内科の専門医の配置が急務である。
周産期医療	小山記念病院(周産期救急医療協力病院) 他の医療機関：白十字総合病院、葉山産婦人科、つばさクリニック
小児救急医療	神栖済生会病院(地域小児救急センター) 他の医療機関：白十字総合病院、高須病院、鉾田病院、なめがた地域医療センター、小児科標榜診療所(43箇所)

問2 医師派遣要望について

(1)問1を踏まえ、医療圏としてR5年度に医師派遣が必要な病院・診療科・医師数及び医師派遣が必要な理由を記載してください。

医療圏全体の具体的なデータに基づき、医師派遣の必要性が客観的にわかるように記載してください。なお、理由記載にあたり使用する数値データ等の引用元を「参考資料」の欄に記載のうえ、調査票とともに提出してください。

※補正後の要望人数が4人以内、かつ、診療科の重複は不可。

病院名	診療科 ※プルダウンで選択 (その他を選択した場合は 自由記載欄に科名を記載)	政策医療分野 ※プルダウン選択	医師数					医師派遣が必要な理由	参考資料
			R5.4.1 現員数	年度内増減 予定人数	派遣要望 a	補正対象 (該当に○)	補正後 b=a×1/2		
小山記念病院	脳神経外科	脳卒中	4.9	0	1			血管内治療を提供出来る医師は常勤医1名です。 この医師により、個票②③④⑤の行に記載した全てのカテーテル手術をこなしています。 一次脳卒中センターとして、開頭手術以外の当該手技を24時間365日安定的に提供するためには、 医師の補充が急務であると考えます。	
小山記念病院	救急科	救急医療	2.7	0	1			救急専門医1名に加え、救急科担当医1名の2名による救急外来業務を展開している。 収容依頼を断らない方針を強化しているが、それに伴い、要請件数が増加している。また、疾患の幅 や重症度も高いことが多く、患者の搬送が重なる場面が増加した。 特に、日勤帯の受入を断らないこと並びに前述の重症者対応に際しての医療の質向上が課題であり、 それを担保するためには救急専門医1名の補充が必要であると考えます。	
白十字総合病院	呼吸器内科	救急医療	0.6	0	1			救急搬送要請に対して迅速に対応する事が望まれている。ケアミック型の当院には特に高齢患者さん の受診が多く合併症を有する、多様な症例の患者さんであるが、その中でも呼吸系疾患の割合が 著しく高い。救急搬送依頼に対する当院の救急車収容率は概ね6割台であるが、呼吸器系疾患に高 い水準で対応できる呼吸器内科医が加わることで結果として、救急部門の充実が図られるものと思 える。呼吸器疾患についての指導的役割も期待しており、呼吸器疾患への理解を深め救急体制の全 体的な底上げにつなげたい。 なお、鹿島地区は臨海工業地帯があり呼吸器疾患患者も多い。喘息、じん肺、アスベスト肺や胸膜中 皮腫も存在し早期発見治療が重要と思われる。また間質性肺炎や肺線維症も多く喫煙率も高いため 肺がん症例も多い。	
神栖済生会病院	消化器内科(胃腸内科)	救急医療	0	0	1			当院では、救急搬送受入に力を入れてきたところ、令和4年の救急受入件数は2,406件となった。更なる 受け入れ促進を図るため、救急内視鏡及び緊急手術対応を可能としたいが、現状、消化器内科領 域を外科がカバーしている状況であることから消化器内科医の配置が必要。	
合計					4			→4人以内であること(医療圏間での融通があった場合はこの限りでない)	

(2) (1)において、医療圏間で上限枠を融通し合った場合は、その対象となる情報を記載してください。

融通し合った医療圏名 融通し合った人数※ ※上限枠を増した場合は整数を、減した場合は負数を記載してください。

融通し合った医療圏名	融通し合った人数※

(3) (1)のほか、やむをえない理由により上限人数を超えるまたは診療科が重複する要望について、病院名、診療科、医師数、要望の優先順位及び医師派遣が必要な理由(上限を超える又は診療科が重複する理由も含む)を記載してください。

医療圏全体の具体的なデータに基づき、医師派遣の必要性が客観的にわかるように記載してください。なお、理由記載にあたり使用する数値データ等の引用元を「参考資料」の欄に記載のうえ、調査票とともに提出してください。

※優先順位が付いていない要望は不可。

病院名	診療科 ※プルダウンで選択 (その他を選択した場合は 自由記載欄に科名を記載)	政策医療分野 ※プルダウン選択	医師数			優先順位	医師派遣が必要な理由 (上限人数を超える又は診療科が重複する理由も含む)	参考資料
			R5.4.1 現員数	年度内増減 予定人数	派遣要望 a			

※自由記載欄(その他、または表に記入できない場合)



調査は以上です。御協力ありがとうございました。